

特集 平戸の子どもは平戸で育てる!

～中学校部活動の地域移行について～

図 学校教育課 ☎22-9212



練習に励むDiverti HIRADO SSの皆さん

子どもたちが好きなことをできる地域にしたい



ディベルティヒラドサッカー学校
Diverti HIRADO SS 代表
ちが こうじ
値賀 浩司 さん
(鏡川町)

「子どもたちが、自由にサッカーができる環境を作りたいと考えていた時に、中学校部活動の地域クラブ認定制度が始まり、すぐに活用したいと思いました」と語るのは、地域クラブ「Diverti HIRADO SS」で、サッカーを指導する値賀浩司さん。

サッカーの指導を始めて40年。当初は勝利至上主義で、自分の考えを押し付けていたとのことですが、今は「スマイル・エンジョイ・チャレンジ」をモットーに、「技術だけでなく、自由な発想と判断力を身につけ、私生活でも社会性をもった人間に育てることを第一に考えています」とのことです。

現在、チームには23人が所属して

おり、それぞれ住んでいる地域が異なるため、地域を超えた新しい交流の場になっているとのこと。

一方で、遠方から練習に通う子どももおり、仕事を早上がりしなないと練習に連れていくことができないなど、保護者の送迎にかかる負担や費用面での問題は否めず、スクールパスの活用など、地域の支援があればと感じることもあるそうです。

「スポーツだけでなく、文化・芸術的なことも含めて、子どもたちが好きなことをできる場所を作るためには、地域の協力は不可欠で、そこに関わる大人を増やしたい。そのために、私達が地域クラブのモデルとなり、平戸市全体で子どもたちの未来を支えたい」と語ってくれました。

平戸の子どもは平戸で育てる!

地域の皆さんが、「平戸の子どもは平戸で育てる」という気持ちで、自分に何ができるのか考えることが、学校と地域が連携し、部活動が地域へと展開していく第一歩となります。

今月、「中学校部活動地域移行」についての説明会を平戸市内6カ所で開催します。どなたでも参加できますので、詳しくはホームページをご確認ください。

また、地域クラブの指導者を募集しています。指導を検討されている人は、指導者エントリーシステムへの登録についてもご検討ください。

ホームページはこちら▼



指導者エントリーシステムへの登録はこちら▼



平戸市中学校部活動地域移行の年次具体的方針

令和6年度(改革期)

地域や保護者が運営可能な場合、休日の部活動を地域クラブ化する。
別団体で行っていた部活動については、休日・平日とも可能な限り地域クラブ化する。

令和7年度(発展期)

地域や保護者が運営可能な場合、休日の部活動を地域クラブ化する。
令和7年度末までに休日の部活動の地域クラブ化完了を目指す。

令和8年度(浸透期)

休日の部活動の地域クラブ化の状況確認と並行して平日の部活動の地域クラブ化を進めていく。
令和8年4月から休日の活動・大会参加は地域クラブ活動として行う。

令和9年度以降(目指す姿)

休日の部活動の地域クラブ化が完了し、平日においても地域クラブ化への移行が拡大していく。
実施主体を学校教育から社会教育へと変えていく。

中学校部活動の現状

これまで中学校の部活動は、長い間、子どもたちの成長に大きな役割を果たしてきました。

しかし、全国的に少子化が進み、部活動の役割を1つの学校単位で担っていくことが困難になっていきます。そのため、複数の学校で合同活動したり、拠点校に集まったりして部活動を維持しようとしてきました。が、生徒数は減少の一途をたどり、部の存続が危うくなってきている状況です。

自分が通う中学校でやりたい部活動に取り組むことや、卒業まで同じチームで活動するなど、これまで当たり前であったことができなくなってきました。

そこで、生徒がこれからもスポーツ・文化活動を続けられるように、部活動について、学校教育の一環から生涯学習の一環という考えに転換し、地域クラブへ移行することが求められています。

「平戸市地域クラブ認定制度」の運用を開始

平戸市では、令和5年に「令和7

年度末までに、休日の中学校部活動の地域クラブ活動への移行を完了する」という基本方針を策定し、その受け皿となる地域や団体の検討を始めた。

まずは、休日の部活動を学校から切り離し、地域や保護者を中心として担っていく団体への移行を目指します。さらに、令和7年4月1日から「平戸市地域クラブ認定制度」の運用を開始しました。この制度で認定を受けた地域クラブに対して支援を行いながら、令和7・8年度については、学校部活動の受け皿となる地域クラブの立ち上げを急ぎます。

子どもたちに合った地域クラブ活動

地域クラブ活動は部活動の良さを活かすことはあっても、部活動のコピーである必要はありません。子どもたちのニーズに合った、持続可能な形を目指してよいのです。

平戸市としては、子どもたちがやりたいことを選択し、継続して活動できることを第一に考えます。また、その活動を支える大人たちが負担を抱え込まないことが大切です。そのためにも関わる地域の人を増やすことが必要です。